

あいちトリエンナーレに向け、所蔵作品展内の展示室 6 で若手作家を紹介している「現代美術の発見」シリーズ。第 4 回の宮永春香さんは 1980 年石川県金沢市の生まれで、2008 年に金沢美術工芸大学大学院の博士課程を修了。愛知県が 2007 年から開催している公募「アーツ・チャレンジ 新進アーティストの発見 in あいち」の 2009 年入選者でもあります。



《FEITICO 抜け殻》2009 年

真っ白な毛糸の編み物のように見えますが、この作品、磁器なんです。いったいどうやって作るのでしょうか？



金澤アートイベントカレンダー『Equal』 vol. 12 より

紙紐をかぎ針で編んだものに磁土をドロドロにした泥漿（でいしょう）をしみ込ませ、高温の窯で焼くと、紙紐は完全に焼失して中空の磁器になります。



アトリエの机

紙紐と磁器。同じような形でも、印象が大きく違いますね。



虚（そら）と骨》2003年

こちらは宮永さんが大学の学部を卒業した2003年の作品。器の外側と内側の空間が入り組んだダイナミックな造形ですが、これも紙と紙紐で作ったチューブによる立体に陶土を付け、紙が焼失した抜け殻が形となったもの。



宮永さんはより複雑な形を作るために「編む」技法を始めましたが、できた形象からお守りのような意味性を感じて、ポルトガル語の「護符」にもとづく FEITICO（フェティシエ）というタイトルをつけました。今回出品の 35 点の中に、きっとあなたの心に響く形が見つかることでしょう。

(TM)